

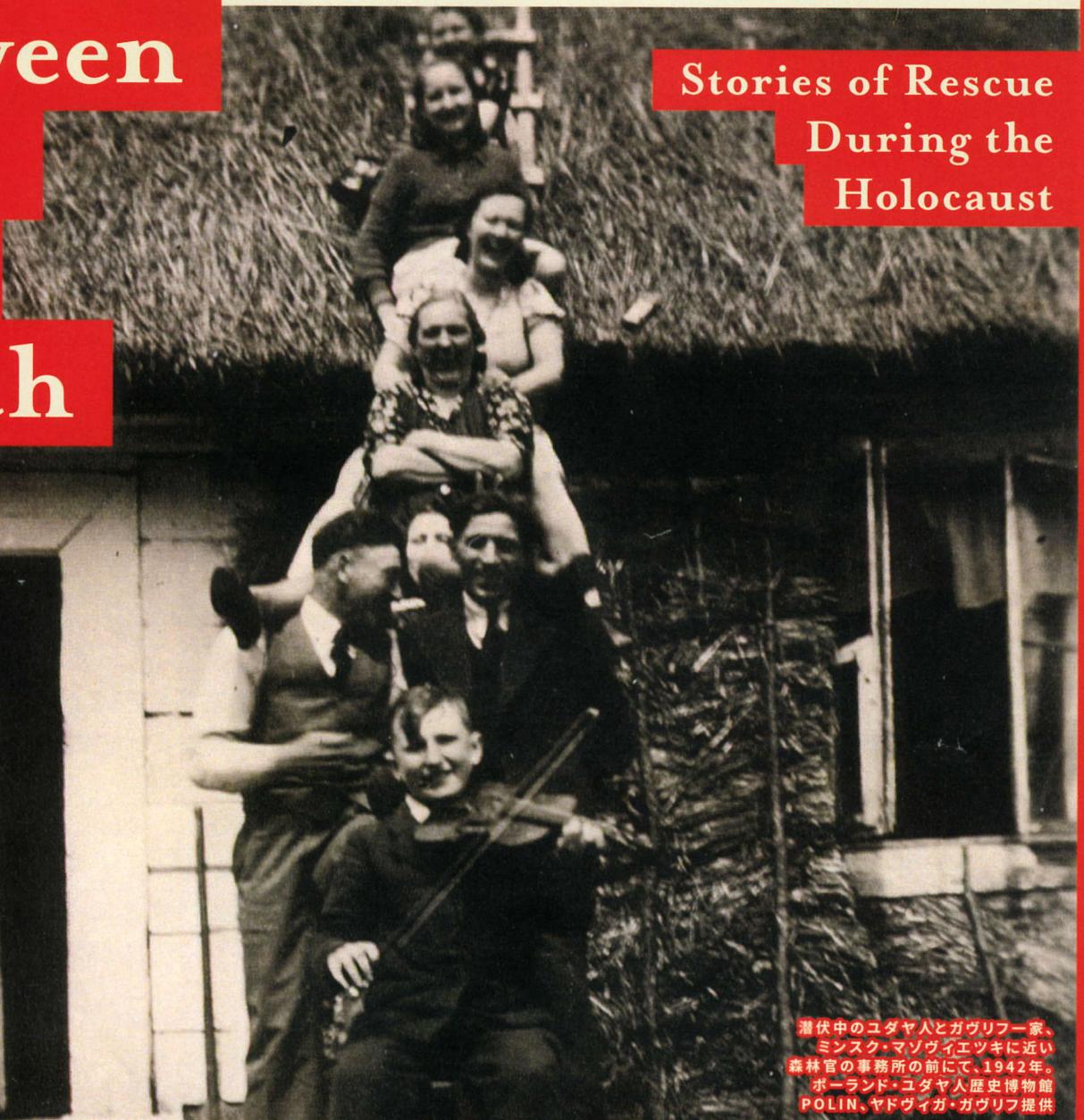
特別展

# 生と死の間で

ホロコーストとユダヤ人救済の物語

Between  
Life  
and  
Death

Stories of Rescue  
During the  
Holocaust



潜伏中のユダヤ人とガブリーフ一家、  
ミンスク・マジヴィエツキに近い  
森林官の事務所の前にて、1942年。  
ポーランド・ユダヤ人歴史博物館  
POLIN、ヤドヴィガ・ガブリフ提供

2021.6.26~8.29  
9:00~17:00 (入場16:30まで)  
※祝日を除く  
月曜休館

あーすぶらざ5階  
常設展示室(特設会場)

入場料

大人 400円 高校・大学生・65歳以上 200円  
小・中学生 100円 幼児 無料

主催: 神奈川県立地球市民かながわプラザ(あーすぶらざ) 指定管理者: 公益社団法人青年海外協力協会  
共催: European Network Remembrance and Solidarity(記憶と連帯の欧洲ネットワーク)  
協力: 公益財団法人大阪国際平和センター(ピースおおさか) 後援: 駐日ポーランド共和国大使館、ポーランド広報文化センター

# 生と死のはざまで

杉原千畝と妻の幸子、  
ルーマニアにて、1941年頃。  
杉原はユダヤ人難民に日本への  
通過ビザを数千枚発行した。



杉原伸生提供

ニーナ・ヴェルタンス、  
両親とともに、  
ワルシャワにて、1938年。  
1939年9月に一家は、  
ワルシャワを離れて  
リトアニアへ行き、  
そこで杉原千畝より  
ビザを得て、日本へ向かった。



ニーナ・アドモニ提供



ルーナ・アドモニ 提供

人力車でポーズをとる  
ニーナ、上海にて、  
1943年頃。  
日本で半年過ごした後、  
当時、国際都市で  
あった上海へ向かった。

# 人々が選んだ道とは

第二次世界大戦中、ナチス・ドイツによる迫害で多くのユダヤ人が犠牲になりました。この迫害の中で、危険を冒しながらもユダヤ人に手を差し伸べた人々がいました。そのおかげで生き残ることができたユダヤ人もいます。本展示では12か国のヨーロッパの国々におけるユダヤ人救済の物語を紹介します。これらの物語は、救済者と生存者がいかにして生き延びたのかを、彼らが直面した歴史的背景を踏まえ、その勇気や強く生きる意志を伝えていきます。展示の中には、杉原千畝氏※によって救われた人の証言も含まれています。ホロコーストにおける救済者と生存者、両者の体験を通して、彼らが「生と死」の狭間にいた状況を感じ取ることで、戦争の悲惨さと平和の尊さを考える機会とします。

※第二次世界大戦中、日本領事館領事代理として赴任していたリトアニアのカウナスで、ナチス・ドイツによって迫害されていた多くのユダヤ人にビザを発給し、彼らの亡命を手助けしたことで知られています。

記憶と連帯の欧洲ネットワーク (ENRS: European Network Remembrance and Solidarity)

「記憶と連帯の欧州ネットワーク」は、ドイツ、ハンガリー、ポーランド、スロバキア、ルーマニア（2014年に加盟）の政府機関によって2005年に創設されました。20世紀ヨーロッパにおける歴史の記憶と文化の発展を支援することを目的として、展示会や出版物の発行、ワークショップ、研究訪問、会議に至るまで幅広いプロジェクトを企画しています。今現在は、上記5か国に加え、他のヨーロッパ諸国もオブザーバーなどとして参画しています。本部はワルシャワにあります。

新型コロナウイルス感染症対策として、一部内容を変更または、中止する場合がございます。詳細はHPをご確認ください。



「本郷台駅」  
改札出て  
左左

